

国際協力の現場を語る

JICA (ジャイカ: 国際協力機構) は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア (40歳~69歳) を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてきています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時: 毎月第3水曜日 15時30分~17時
 会 場: JICA 横浜 会議室またはセミナールームなど
 会 費: 無料 (どなたでも自由に参加出来ます)
 主 催: NPO「シニアボランティア経験を活かす会」
 後 援: JICA 横浜



(やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先を確認して下さい)
 問合せ先: 横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内
 シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分会
 Fax: 045-663-3263 担当: 臼井道雄 (045-891-5490)
 URL: jicasvob.com E-mail: info@jicasvob.com

赴任国 (講師名)	「タイトル」 講演概要	
第131回 7月20日 (水) マレーシア (斉藤祐子)		「障がい児教育—始めの一步」 アジアの中でも優等生と言われ、経済発展が目覚ましいマレーシアは、退職後住みたい国のNo.1と報道されている。しかしようやく歩みだそうとしている分野もあり、障がい児教育はその一つである。現在注目されている自閉症児やADHD児をはじめ障がい児の自立に向けて、一步を踏み出した現地の人々と共に、活動した2年間をお伝えします。
第132回 8月17日 (水) 中華人民共和国 (秀嶋安城)		「南昌八一公園「日本語角」で日本語を語り合う中国の学生たち」 8年間の日本語支援で最も嬉しく、また感動を与えてくれた出来事では、30年前創設された博堅先生 (杭州市在住) の青空学園である。日中友好の窓口を開き両国の架け橋になればとの思いで始めた露天の民間学園は現在も多くの学生達が集まり日本語を語り合う不思議な「日本語角 (日本語コーナーの意味)」は現在も賑合っている。
第133回 9月21日 (水) カンボジア (橋本正則)		「授業の質的改善」 カンボジアの教育はポル・ポト政権時代に大きく崩壊した。現在、教育改革は緒についたばかりである。新しい教育大臣による教育改革が始まり、高等学校卒業試験の不正行為防止も改革の一つである。喫緊の課題は、授業の質的改善である。私は、教育青年スポーツ省教員養成局に配属され、教員養成校を巡回指導し、理科授業の質的改善を図った。それは、教師主体の授業から、学習者主体の授業への質的改善である。
第134回 10月19日 (水) ホンジュラス (竹原徳郎)		「中米ホンジュラスでのボランティア活動」 派遣先の国立自治大学からの具体的要請内容は起業教育に係る改善案と産業振興策の提案である。活動を進めて行くうちに私にとって未知の国ホンジュラスが見えてきた。主な産業はバナナ、コーヒー、エビの養殖である。バッドニュースも多い。学生達は卒業してもなかなか就職先が見つからない。でも自分の国を愛しおおらかでフレンドリーな彼らと過ごした2年間を報告する。
第135回 11月16日 (水) ベトナム (鈴木 新)		「フリーフロー生産方式の導入」 派遣先のベトナム生産性本部は、ローカル企業へ生産性と品質管理の向上を指導する機関で、日本の工場管理・品質管理の考え方と実際に企業に普及することが期待され、講座や講演を各地で行った。活動の後半は製菓会社の改善活動を具体的に指導する機会を得て、製品包装職場でベトナム人に適した流れ作業化を行い、生産性を大幅に向上できた。合わせてベトナム市民の生活と、少数民族の生活に触れたい。